2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報



# カーボンニュートラルを実現し グリーンでサステナブルな未来を

ICT企業による地球環境保護活動への期待と責任は社会的に大きくなっています。 私たちは、低炭素社会の実現、循環型社会の推進、生物多様性の保全という3つ の領域を重視した多面的な取り組みを進めており、「環境宣言」および「環境目標 2030」を設定・公表してきました。

2021年3月には、急速に変化する地球・社会状況に対応するため、「環境目標2030」を見直し、「脱炭素」に向けた具体的な目標と取り組みを設定。事業活動を通じた自社による環境負荷低減に加え、社会全体の環境負荷低減に貢献し、環境問題の解決と経済発展の両立を目指します。

重点活動項目

051 社会が低炭素化している未来

058 資源が循環している未来

061 自然と共生している未来



NTTコミュニケーションズグループは、地球規模の課題である脱炭素社会、循環型社会への移行に向けて、「環境宣言」および「環境目標2030」を掲げ、ICTソリューションによる社会全体の効率化や自らの低炭素化を通じて環境負荷低減に取り組んできました。ICTリーディングカンパニーである弊社は、社会的な需要の高まりもあって大量の電力を消費する通信ビル、データセンターなどを拠点とするICTインフラサービスの提供を通じて、地球環境に大きな負荷をかけています。先進技術の積極的な開発・導入により、環境負荷低減に努めることは、社会全体のサステナビリティに貢献するとともに私たち自身の持続可能性を高めていくことにほかなりません。

2021年度、私たちは急速に進行する気候変動への喫緊の対策として、従来の「環境目標2030」に「再生可能エネルギー使用率」「CO₂排出量の削減」 「国内一般車両のEV化」などの具体的な目標を追加し、環境マネジメント体制の見直しを図るなど、2030年度のデータセンターとネットワークなど、自社が排出する CO₂のカーボンニュートラル化に向けて、より一層踏み込んだ形で環境取り組みを推進していきます。さらには近年、多種多様な業界と 積極的に連携して研究開発を展開し、環境負荷低減に向けた取り組みの加速を図っています。これからも私たちはグリーンな未来の実現に向けて、基本的な施策から先進技術の採用までを計画的かつ積極的に行い、ICT企業としての責任を果たしていきます。

※ 対象はGHGプロトコル: Scope1(自らの温室効果ガスの直接排出)、およびScope2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

#### 2020年度の活動実績

基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 2020年度の活動実績

# CSR指標に即した活動の成果

2020年度は「社会が低炭素化している未来」「資源が循環している未来」「自然と共生している未来」の柱に即し、すべての事業活動に伴う環境負荷の低減を図りました。特に、電力使用量の削減施策を継続するとともに、再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再エネを含む)を導入し、CO₂排出量の低減に貢献しました。また、リモートワークネイティブの取り組みの一環として紙書類の電子化が大きく前進したことや3Rの推進を継続したことなどにより、廃棄物最終処分率の改善を図りました。2021年度は、継続して「電力使用量の削減、再生可能エネルギーの導入、廃棄物リサイクルの推進、生態系の保全活動」などを主眼に各種施策を展開し、自社だけでなく、社会全体の環境負荷低減を図ります。

#### ◆ 2020年度の活動実績

			2020年度			活動		
取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価		フンダリ 組織 外	
重点活動項目	社会が低炭素化し	している未来 関連するSDGs▶	7 13					
事業の低炭素化	通信事業(データセンター含む)の通信量あたりの電力効率を2013年度比で10倍以上(2030年度目標)	2030年に通信事業(データセンター含む)の通信量あたりの電力効率を2013年度比で10倍以上(2020年度目標: 4.5倍)  ○ さらなる電力使用量の削減に向けてエネルギーマネージメント施策を推進  ○ CO2排出量: 23.3万t-CO2(排出係数: 0.454kg-CO2/kWh)  - 通信設備: 21.7万t-CO2  - オフィス: 1.6万t-CO2	<ul> <li>再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再生可能エネルギーを含む)の導入</li> <li>通信ビル(データセンター含む)の省電力、脱炭素化</li> <li>通信設備の吸排気方向の整合</li> <li>温度センサー感知による気流改善</li> <li>室内温度の適正化</li> <li>空調制御の実施</li> <li>自動空調制御システムの導入拡大</li> <li>オフィスの電力使用量削減</li> <li>出社率目標の設定(30%以下 実績:20%程度)</li> </ul>	<ul> <li>再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再生可能エネルギーを含む)の導入:0.4億kWh(使用電力に占める割合:8.4%)</li> <li>電力効率化:6.3倍(2013年度比)</li> <li>○ CO₂排出量:19.2万t-CO₂(排出係数:0.415kg-CO₂/kWh)</li> <li>通信設備(データセンター含む):17.6万t-CO₂</li> <li>オフィス:1.5万t-CO₂</li> </ul>	* *	•		国内グループ
製品・サービス を通じた社会の 低炭素化	NTT Comグループ による社会のCO <sub>2</sub> 排 出の削減貢献量を、 NTT Comグループ 自身の排出量の10倍 以上(2030年度目標)	2030年にNTT Comグループによる 社会のCO2排出の削減貢献量をNTT Comグループ自身の排出量の10倍以 上とするため、「ソリューション環境ラ ベル」を拡大(2020年度目標:15.3倍)	社会のCO₂削減に貢献できる「ソリューション環境ラベル」認定サービスを維持し、当該サービスの販売を推進	実績:18.3倍	**	•	•	国内グループ

自己評価による達成レベル ★★★:目標を達成できた ★★:目標をほぼ達成できた ★:目標はあまり達成できなかった

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

#### 2020年度の活動実績

基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

	 		2020年度				動範囲	
取り組み施策	中朔日標 (5年後になりたい姿)	目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価	組織	組織集外範	
重点活動項目	資源が循環している	未来 関連するSDGs ▶ 12						
環境負荷の低い 事業モデルの 実現	環境負荷に留意した事業 モデルの実施	環境負荷に留意した事業モデルの構築・維持 - 電力削減施策の実施 - 省エネルギー設備の導入 - 有害物質の適正な管理	<ul><li>● 省エネルギー設備の導入</li><li>● (直接・間接)外気空調の導入</li><li>● 気流制御導入ビルの拡大</li><li>● PCB・アスベストの有害物質の適正な管理</li><li>● 水資源の有効活用</li></ul>	_	* *	•	F	国内グループ
事業における 3Rの徹底	事業活動に関わるすべての資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」を徹底-廃棄物の最終処分率改善:最終処分率1.5%以下(2030年度目標)	<ul> <li>事業活動に関わるすべての資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」の推進</li> <li>- 廃棄物の最終処分率改善: 最終処分率2.0%以下</li> <li>- プラスチックの利用削減、循環利用の推進</li> <li>ICT機器を活用したペーパーレスなワークスタイルの推進</li> </ul>	<ul> <li>□ 「3R」のさらなる推進</li> <li>● 廃棄物処理フロー、処理方法の確認、サーマルリサイクルの推進による最終処分率改善施策を実施</li> <li>● リモートワークの定着を通じた紙使用量、プラスチック排出量の削減</li> </ul>	廃棄物の最終処分率:1.6%	* *	•	P Z	国内グループ
重点活動項目	自然と共生している	未来 関連するSDGs▶ <mark>14</mark> 15						
生物多様性に配慮した設備	<ul> <li>NTTグリーンビルディングの考え方に基づいた設備構築・維持・改修</li> <li>生物多様性の保全に関する行動指針の遵守</li> </ul>	<ul> <li>NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備構築・維持・改修</li> <li>生物多様性の保全に関する行動指針の遵守</li> </ul>	<ul><li>NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備維持</li><li>生物多様性の保全に関する行動指針の遵守</li><li>アカハラダカの渡りの観察場所の提供</li></ul>	_	* *	•	P 2	国内グループ
ICTを活用した 生物多様性への 貢献	ICTを活用した生物多様性 への貢献・対応	ICTを活用した生物多様性への貢献・ 対応	<ul><li>みまわり楽太郎の拡大(全国50自治体へ拡大)</li><li>緑のgooを通じた情報発信、啓発活動</li></ul>	_	* *	•	•   F	国内グループ

自己評価による達成レベル ★★★:目標を達成できた ★★:目標をほぼ達成できた ★:目標はあまり達成できなかった

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来

環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 基本理念とビジョン

私たちの環境保護活動は、NTTグループの定める「地球環境憲章」の理念を重んじつつ、

それを私たちの事業特性に応じたNTTコミュニケーションズグループ「地球環境憲章」「環境目標2030」として具体化し、継続的な取り組みを実施しています。

# NTTコミュニケーションズグループ 地球環境憲章

NTTグループは、「NTTグループ地球環境憲章」を制定し、グループを挙げてグローバルな視点から環境保護を考え、活動を進めています。この理念ならびに方針を踏まえて、NTTコミュニケーションズグループにおいても、「NTTコミュニケーションズグループ地球環境憲章」を制定し、あらゆる環境保護活動の指針としてグループ全社員への浸透を図っています。

2021年度には、脱炭素、地球環境への貢献のさらなる加速を目的として、NTTグループの環境エネルギービジョンとサステナビリティ憲章の見直しが実施され、「NTTグループ地球環境憲章」の強化が行われる予定です。NTTコミュニケーションズグループの地球環境憲章についても、社会の期待に応える先進企業として相応しいものへアップデートを行う予定です。



「NTTコミュニケーションズグループ地球環境憲章」は、こちらをご覧ください

https://www.ntt.com/about-us/csr/eco/details.html

# 環境宣言および環境目標2030の設定

私たちは、地球環境に関する世の中の動向を見据えつつ、2016年11月、NTTコミュニケーションズグループの環境活動を見直し、「NTTコミュニケーションズグループ環境宣言」および「環境目標2030」を設定しました。2020年度には、地球規模の気候変動に対する企業の果たす役割・責任の一層の増大に応じ、「環境目

標2030」の見直しを実施しました。

私たちNTTコミュニケーションズグループは、時代を先駆ける技術やサービスの提供を通じて、人と地球が調和する未来の実現に向け、全社員が一丸となり環境活動に取り組んでいきます。

## NTTコミュニケーションズグループ 環境宣言

人と地球が調和する未来のためグローバル環境経営の最先端へ 時代を先駆ける技術やサービスの提供を通じて、 3つのテーマに取り組んでいきます。



### 社会が低炭素化している未来

世界が目指すCO2排出量の 大幅削減と、気候変動リスクの 適応に貢献します。



# 資源が循環している未来 資源の有効利用に貢献します。



自然と共生している未来 生態系の保全に貢献します。

※「NTTコミュニケーションズグループ環境宣言」については今後の「NTTグループ地球環境憲章」の見直し状況を踏まえ、アップデート予定です

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績

基本理念とビジョン

環境マネジメント 社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来

自然と共生している未来 環境汚染の防止

人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 環境目標2030

「環境目標2030」では環境宣言で掲げる未来を実現するための3つのテーマについて、2030年度までの取り組み目標\*1を設定しました。さらに2020年度、NTTグループ「環境エネルギービジョン」の宣言(2020年5月)を受け、急速な気候変動への対策として「再生可能エネルギー使用率」「CO2排出の削減」の具体的な目標を追加するとともに「国内一般車両のEV化」の目標を追加しました。

2030年度のカーボンニュートラル (排出量実質 ゼロ) \*2 については、自社における再生可能エネルギー使 用率を50%以上とすることなどで、実現を目指します。

目指す未来		取り組み目標
COo 社会が低炭素化	自社における再生可能 エネルギー使用率 <sup>*3</sup>	NTT Comグループにおける再生可能エネルギーの使用率を50%以上にします
している未来	自社で排出する CO2の削減(Scope1・2)	NTT Comグループで排出するCO₂を2018年度比で 50%削減します <sup>*4</sup>
	サプライチェーンを 通じて排出する CO2の削減(Scope3)	サプライチェーンを通じて排出するCO₂を2018年度比で15%削減し ます
	国内一般車両のEV化率	NTT Comグループで使用する国内一般車両のEV化率を100%*5に します
	社会からの CO₂排出削減貢献量	NTT Comグループによる社会のCO₂排出の削減貢献量を、 NTT Comグループ自身の排出量の10倍以上とします
	気候変動適応への貢献	気候変動への適応に貢献するため、あらゆる活動を通じた取り組みを 積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまと協働してい きます
資源が循環 している未来	廃棄物の最終処分率	NTT Comグループが排出する廃棄物の最終処分率を1.5%以下とします
自然と共生している未来	生態系保全の取り組み	生態系を保全するため、あらゆる活動を通じた取り組みを積極的に 推進します。また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます

※「NTTコミュニケーションズグループ 環境目標2030」については、「NTTグループ 環境エネルギービジョン」の見直しを踏まえ、アップデート予定です



<sup>※1</sup> 定量目標は、2030年度の目標値です

<sup>※2</sup> 対象はGHGプロトコル: Scope1(自らの温室効果ガスの直接排出)、およびScope2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)

<sup>※3</sup> データセンターにおける他社使用分を含みます

<sup>※4</sup> SBT 1.5℃相当

<sup>※5</sup> まず2024年度に50%にします

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 環境マネジメント

# 環境負荷削減に向けた推進体制

私たちは、環境保護活動を継続的に推進していくた め、CSR担当役員である常務執行役員を責任者とする CSR委員会内に地球環境保護推進部会を設置するとと もに、課題別のワーキンググループ(WG)を編成し、 グループ会社一丸となって環境問題に取り組んでいま す。地球環境保護推進部会では、温室効果ガスの削減 や廃棄物量の削減など多岐にわたる領域の全体計画を 策定するとともに、活動成果などの情報共有や水平展 開の促進を図っています。

2020年度は、新たに「環境目標2030」に加えた、 再生可能エネルギーの導入や温室効果ガス (CO<sub>2</sub>) の排 出削減、国内一般車両のEV化率の目標達成などのため、 環境マネジメント体制の見直しを図り、グループ一丸 となってさらなる地球環境の保護活動を推進してきま した。

◆ 環境保護の推進体制図 社長 CSR委員会(年2回) CSR委員長 【事務局】CSR·環境保護推進室 ※四半期毎に活動状況を取締役会へ報告

> 地球環境保護推進部会(年2回) 【事務局】 CSR·環境保護推進室



(2021年3月31日現在)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重

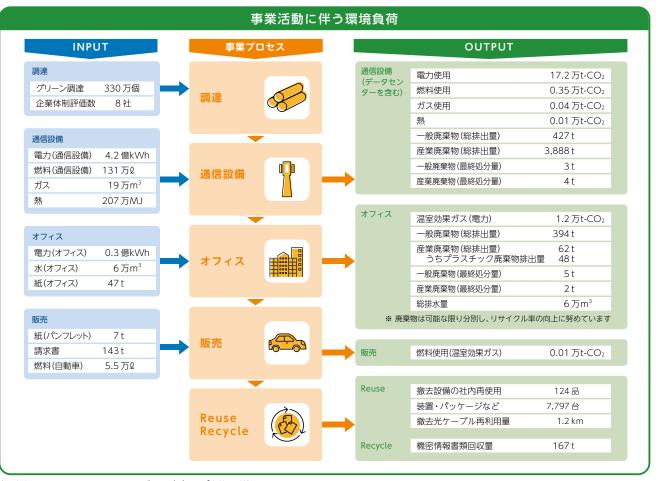


経営統治の継続的強化

企業情報

# 事業活動に伴う環境負荷

# 【2020年度のマテリアルフロー



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

# CO2排出量の算定

Scope3については、環境省や他省庁が調査した排出 原単位データベースなどを参照し、15カテゴリの中で 関連する10カテゴリの算定を行っています。

#### ◆ CO₂のScope・カテゴリ別排出量

カテゴリ	構成比率 (%)	CO <sub>2</sub> 排出量 (万t-CO <sub>2</sub> )
ope1(自社による温室効果ガスの直接排出 料の燃焼など))		0.7
ope2(他社から供給された電気、熱などの 用に伴う間接排出)		18.7
ope3(Scope1、Scope2以外の間接排出 社の活動に関連する他社の排出)	100	380.9
カテゴリ1(購入した製品・サービス)	23.3	88.9
カテゴリ2(資本財)	8.5	32.4
カテゴリ3(Scope1,2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動)	1.0	3.7
カテゴリ4(輸送、配送(上流))	0.2	0.8
カテゴリ5(事業から出る廃棄物)	0.0	0.0
カテゴリ6(出張)	0.2	0.8
カテゴリ7(雇用者の通勤)	0.2	0.7
カテゴリ8(リース資産(上流))	_	_
カテゴリ9(輸送、配送(下流))	_	_
カテゴリ10(販売した製品の加工)	_	_
カテゴリ11(販売した製品の使用)	59.0	224.6
カテゴリ12(販売した製品の廃棄)	2.2	8.4
カテゴリ13(リース資産(下流))	5.4	20.7
カテゴリ14(フランチャイズ)	_	_
カテゴリ15(投資)	_	_

※ Scope1にはCO2以外の温室効果ガス(代替フロン等)のCO2換算排出量を含む (集計範囲: NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来



環境汚染の防止

人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 2020年度の環境会計

NTTコミュニケーションズグループは、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」およびNTTグループ「環境会計ガイドライン」にもとづいて、環境保全コスト(事業活動に応じた分類)および環境保全に伴う経済効果(実質的効果)を集計しています。

2020年度の環境保全コストは、投資総額が約9.0億円、費用総額が約14.9億円、総額は約23.9億円であり、主に地球環境保全に関連する投資金額の増加により対前年度約1.3億円の増加となりました。

一方、2020年度の環境保全に伴う経済効果は16.8 億円で、主に省エネ施策による電力料金削減や売却 (ケーブル・金くずなど)による収益効果の増加により、 対前年度約1.2億円の増加となりました。

#### ◆ 環境保全コスト(事業活動に応じた分類)(単位:百万円)

	分類	<del>↑</del> <b>/</b> > H7   1	8.2.00000000000000000000000000000000000	投資額費用額		用額	
	刀規	主な取り組みの内容		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
(	1)事業エリア内コスト			850	862	1,219	1,302
		公害防止コスト	発動発電機用給油タンク設備 PCB使用物品管理	231	289	164	145
	内訳	地球環境保全コスト	電力使用によるCOz排出量削減 対策	618	573	526	612
		資源循環コスト	廃棄物処理および再利用費用	0	0	529	545
(	2)上・下コスト	通信機器などの回収・リサイクル・再和	利用対策	73	42	47	45
(	3)管理活動コスト	環境保全管理活動		0	0	73	117
(.	4) 研究開発コスト	NTTグループ環境関連研究開発費の負	負担分	0	0	1	23
(5) 社会活動コスト ボランティア参加支援費用			0	0	2	2	
(	(6) 環境損傷対応コスト		0	0	0	0	
2	sāt			924	904	1,342	1,488

#### ◆ 環境保全に伴う経済効果(実質的効果)(単位:百万円)

分類	主な取り組みの内容	2019年度	2020年度
収益	売却(ケーブル・金くずなど)による収益効果	239	315
	省エネ施策による電力料金削減額	391	490
費用削減	撤去通信設備の再利用による購入費用の低減	400	441
	マイページによる郵送費および紙資源削減額	533	433
	その他	0	0
合計		1,565	1,681

集計対象期間:毎年4月1日~3月31日

集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社

集計および開示の方法:環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」およびNTTグループ「環境会計ガイドライン」にもとづいて集計しています。 なお、費用に人件費を含みますが、減価償却費は含んでいません。



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 環境マネジメント体制

## ISO14001 認証取得

2021年3月31日現在、2社でISO14001の認証を 取得しています。認証を取得した部・社では、事業活動 に伴う環境負荷の着実な低減に向けて環境マネジメントの適切な運用とその継続的改善を行うため、社外環 境コンサルタント機関と業務委託契約し内部監査を毎年 1回実施するとともに、外部審査機関による定期的な審 査ならびに更新審査を実施し、課題の抽出とその速やか な対処を行っています。紙(事務用紙)使用量・電力使 用量の削減、廃棄物のリサイクル推進を中心に取り組 んでいるほか、環境にやさしい社会実現に向けた施策を 進めています。

#### ◆ ISO14001認証取得会社

ISO14001	取得年月	
NTTコミュニケーションズ 株式会社*	プロキュアメント & ビリング部 調達推進部門・戦略部門	1999年10月
	ビジネスソリューション本部 ソリューションサービス部	2004年 3月
株式会社NTTPCコミュニケ	2003年11月	

2021年7月1日現在

# ※ 全社員に占める対象組織の社員の割合:23%

# 環境マネジメント

NTTコミュニケーションズグループでは、地球環境 憲章のもと、CSR委員会の下部組織である地球環境 保護推進部会において、環境保護活動を推進する9の WGが担当する各々の活動内容のPDCA報告などを 年1回実施し、課題の共有や有効事例の展開などの働き かけを行い、グループ全体の環境マネジメントを推進し ています。

## ■環境法令・規制の遵守

私たちは、NTTグループ各社と連携を取りながら、 汚染対策を目的とした環境法令や排出基準、PRTR法\* などのあらゆる法令などを関連部署に周知徹底するとと もに、自主的に社内ガイドラインを設ける一方、コンプ ライアンス教育を充実させ、法の遵守はもとより適切な リスク管理に力を注いでいます。なお、2020年度は、 環境関連の事故・違反・罰金・苦情など、これらに関わ る訴訟および法令違反はありませんでした。

今後も、環境汚染の防止と法令遵守に全社的に取り組 んでいきます。

※ PRTR法:特定化学物質の環境への排出量の把握など、管理の改善の促進に 関する法律の略称

# 「グリーン調達の推進

NTTグループは中期経営戦略のなかでESG経営の推進を柱の一つとしており、その一環として2020年5月、「NTTグループ環境エネルギービジョン」を策定しました。同年10月にはSBTイニシアティブから認定を取得し、2021年4月には同ビジョンや外部環境を踏まえ、「NTTグループグリーン調達ガイドライン」を改定しました。この改定に伴い、NTTコミュニケーションズもグリーン調達ガイドラインを改定しました。

NTTコミュニケーションズでは、「グリーン調達ガイドライン」の適用により、お取引させていただくサプライヤーの選定条件に自身の環境保全への取り組みや調達品における環境保全の要素を明記しています。本改定でサプライヤーにCO2排出削減についての協力をお願いするとともに、温室効果ガス削減の取り組みを実施しているサプライヤーから優先して調達することを追記しました。

今後は新ガイドラインに沿ったグリーン調達 (環境への影響を考慮した製品の調達) の取り組みを通じて、サプライヤーの皆さまとともに環境保全活動のレベルアップに取り組み、さらなる社会貢献の実現に寄与していきたいと考えます。



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

#### ◆ グリーン調達の状況 (単位:万個)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
グリーン調達物品量 (事務用品以外)	90	154	204	257	330
グリーン調達物品量 (事務用品)	20	22	21	24	33

# グリーン調達方針の共有

NTTコミュニケーションズでは環境配慮部品・製品の調達に関する基本的な考え方やサプライヤーへの要求事項を互いに共有するため、個別説明会を実施しています。2020年度は52社(紙削減・電子契約化:50社、ビニール包装削減の取り組み:2社)に対して当社の方針を説明しました。

今後もサプライヤーと十分なコミュニケーションを図り、連携してグリーン調達に取り組みます。

# 環境教育への取り組み

私たちは、環境に対する意識向上を目的として、すべての社員を対象に、環境教育を実施しています。また、CSR活動の一環として、環境啓発活動を積極的に実施しており、その対象も社員にとどまらず、社員の家族やビジネスパートナーへと範囲を広げています。

2020年度は、全従業員を対象に「CSR研修」(受講率:93.8%)や「SDGsと事業活動」をテーマとした講演会を実施し、SDGsやESG投資、脱炭素化の取り組み、グローバルリスクといった国内外の社会動向についても学習しました。

また、各オフィスにおける電気・紙使用量およびゴミ 排出量の情報を毎月社内で配信することにより、従業員 の意識啓発を図っています。

そのほか、従業員およびその家族が、「SDGsについて考える機会を持つこと」「SDGsを自分事として捉え行動に繋げること」を目的に、2019年度までの「生物多様性フォトコンテスト」を発展させる形で「SDGsフォトコンテスト」を開催し、約200件の応募がありました。

なお、オフィスビル周辺や海岸での清掃活動、エコキャップの収集推進、里山保全活動 (NTTコム ソリューションズ、NTTコム マーケティング) などの取り組みを通じた環境啓発を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、2020年度は一時

中断としました。従業員参加型の啓発活動については、 2021年度以降の再開に向け引き続き検討を進めていき ます。

#### ◆ 講演会の様子



講師:SDGパートナーズ有限会社 代表取締CEO 田瀬 和夫氏

#### ◆ SDGsフォトコンテスト社長賞「凍える春」



瀬尾 浩史 NTTリミテッド・ジャパン(出向) 関連するSDGs: 13 気候変動に具体的な対策を



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 重点活動 項目

# 社会が低炭素化している未来

## 私たちのアプローチ

SDGs、そしてサステナブルな未来の実現にとって喫緊の課題であるCO2排出量の削減には、自社設備の省電力・高効率化をはじめ、再生可能エネルギーの導入(非化石証書活用による実質再エネを含む)、低炭素性に優れたサービスの提供や環境貢献活動など、多彩なアプローチで取り組みます。自社においては、「通信設備(データセンターを含む)」「オフィス」の2つの切り口から目標を設定しており、社員一丸となったCO2削減に取り組んでいます。特に、事業活動におけるCO2総排出量の90%以上は電力の消費によるもので、電気通信設備の省電力・高効率化の実現は大きな効果を見込むことができるため、先進技術の導入を業界に先駆けて行うなど力を入れています。

# 基本的な考え方

ICTの発展や普及によって豊かな社会や快適な暮らしができるようになりました。その一方で、ICT関連機器の消費電力の増加は、地球環境に大きな負荷をかけています。SDGsでも目標13として「気候変動に具体的な対策を」が設定されており、その主な要因となるCO2排出量の削減は、人類にとどまらない地球上の生物の繁栄に関わる喫緊の課題です。私たちは、低炭素化社会の実現に貢献するため、「環境宣言」のテーマの1つに「社会が低炭素化している未来」を設定してきました。

2021年度は、NTTコミュニケーションズグループ の環境宣言および環境目標2030について、社会の期待 に応える先進企業として相応しいものにアップデートを 行い、脱炭素、地球環境への貢献をさらに加速させます。

# 2020年度の主な成果と今後

2020年度も引き続き、通信事業における通信量当たりの電力効率の向上を図りました。電力効率を上げるため、通信設備の吸排気方向の整合や温度センサー感知による気流改善、室内温度の適正化、空調制御、不要電源OFFの徹底などを継続的に実施しました。この結果、電力効率は6.3倍となり、目標としていた4.5倍を上回ることができました。また、一定の環境負荷低減効果が認められる自社のソリューションに対してNTTグループで定めた「ソリューション環境ラベル」を付与し、効果を見える化したうえで販売しています。これにより、当社グループによる社会のCO2排出の削減貢献量が自身の排出量の18.3倍となり、目標であった15.3倍を上回りました。今後は、これらの取り組みを継続していくとともに、脱炭素社会の実現に貢献するサービス・ソリューションの展開を強化していきます。

2021年度は、再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再エネを含む)の導入やEV化を加速させるとともに、「環境目標2030」について「NTTグループ環境エネルギービジョン」の見直しを踏まえたアップデートを行い、2030年度のカーボンニュートラル\*実現を目指します。

※ 対象はGHGプロトコル: Scope1(自らの温室効果ガスの直接排出)、および Scope2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 温室効果ガスの削減

# 2020年度の実績



2020年度 目標

**23.3**万t-CO2以下



19.2 万t-CO<sub>2</sub> 村前年度比 18.6%減

(2019年度実績: 23.5万t-CO2)

2020年度のNTTコミュニケーションズグルー プの事業活動に伴うCO2排出量\*は、目標を達成 しました。再生可能エネルギー(非化石証書活用 による実質再エネを含む)を導入したこと、通信 ビル (データセンター含む) においてさらなる省電 力を図ったこと、リモートワークの推進によりオ フィスにおける消費電力が減少したことが主な要 因です。また、CO₂排出売上高原単位は、0.18t-CO<sub>2</sub>/百万円となりました。

2021年度は、NTTコミュニケーションズグ ループー丸となって再生可能エネルギーの導入拡

大、継続した省エネ活動、研究開発 (R&D) 技術 活用などの新規施策により、CO2排出量を対前年 度比20%減とする目標を設定し、2030年度には データセンター・ネットワークなど自社が排出す るCO₂を実質ゼロとするカーボンニュートラルを 目指します。

また、データセンターやクラウドサービスを社 会に提供することで、従来お客さま側に設置・運 用されていたサーバー、空調、UPS、照明などを データセンターに集約し、引き続き社会の消費電 力の効率化を図っていきます。

※ CO2排出量は、電力会社ごとのCO2排出係数を使用して算定

#### ◆ 事業活動に伴うCO₂排出量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社) ※ CO2排出量は、電力会社ごとのCO2排出係数を使用して算定

#### ◆ CO2以外の温室効果ガスの排出量(CO2換算)



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社) ※ 社用車および通信ビル(データセンターを含む)、オフィスでの排出 ※ 集計範囲の変更に伴い、数値を遡及して修正

#### ◆ 電力使用量(Scope2)



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント

社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

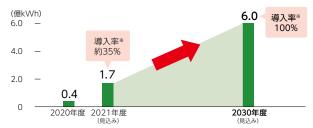
# ┃再生可能エネルギーの利用拡大

2020年4月に、札幌市中央区の大通ビルでNTTグループ初の再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再エネを含む)100%を実現したのを皮切りに、再生可能エネルギーの導入を進め、89棟の通信ビルのうち9棟を再生可能エネルギー率100%としました。2021年度はさらに22棟のグリーン化を実施済みとするなど、再生可能エネルギーの利用拡大を目指します。

#### ◆ NTTコム札幌大通4丁目ビル



#### ◆ 再生可能エネルギー(非化石証書活用による実質再エネを含む)導入量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

※ 対象はGHGプロトコル:Scope2のうち他社から供給された電気に伴う間接 排出

## 公共機関からの評価

NTTコミュニケーションズは2020年度、エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)に基づく、資源エネルギー庁の事業者クラス分けにおいて、最上位である「Sクラス(省エネが優良な事業者(目標達成事業者))」評価を取得しました。

また、東京都からは、特定テナントビル\*5拠点における特定テナント地球温暖化対策計画書に対して、「S」(大手町プレイス、グランパークタワー、汐留ビル)」、「AAA」(秋葉原UDX)、「A」(住友不動産勝どきビル)評価を取得しました。長野県からは、石堂ビル(長野市)における事業活動温暖化対策実施状況等報告書に対して、「AA(エネルギー起源二酸化炭素)」評価を取得しました。

※ 特定テナントビル:年間使用電力量600万kWh以上もしくは床面積5,000㎡ 以上を賃借している事業所の入居ビル



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 通信設備(データセンターを含む)における取り組み

# 2020年度の実績



2020年度目標

**21.7**万t-CO2以下



2020年度実績

**17.6**万t-CO<sub>2</sub> 対前年度比 19.3%減 (2019年度実績: 21.9万t-CO<sub>2</sub>)

2020年度のCO2排出量は、機械室やサーバールームの電力使用量の見える化による空調電力削減施策などの拡充・拡大が奏功し、東京、大阪でのデータセンター(以下、DC)の販売需要の拡大やクラウドサーバーの増設があったものの、目標を達成しました。

2021年度はDCやクラウドサービスの販売が 好調で電力使用量は増加傾向ですが、電力見える 化を通じた施策の継続・拡大やR&D技術の活用、 気流改善、通信設備数の適性化により、CO<sub>2</sub>排 出量については、2020年度比20%減を目標に 設定します。

# ★進の低炭素化技術を導入した 最先端のデータセンターの建設

DCは、その性格上、運用するために一定量の電力を継続的に必要とします。私たちはICT企業として、DCの低炭素化に向け、先進の設備や技術の導入へと積極的に取り組んでいます。

例えば、新たに開設するDCにおいては、壁面吹き出し空調方式や建物外気温を冷却に利用した間接外気冷房システムなどにより、冷却効率の向上や空調消費電力削減などを実現しています。また、東京に建設した新DCにおいては、業界に先駆けて間接蒸発冷却式空調システムの導入により、平均的な空調システムと比較し年間を通じたエネルギーを60%程度削減できる見込みです。

このほか、代替ハロンである窒素系ガスを使用することでオゾン層に影響を与えない消火システムの採用や太陽光発電システム・人感センサーと連動した自動消灯システムなどを導入することで空調設備以外でも脱炭素に向けた取り組みを行っています。

引き続き、先進の設備や技術の導入を推進し、DCの 低炭素化を加速します。

平均的な 空調システムと比較

年間約60%削減

# データセンターにおける 再生可能エネルギーの提供開始

デジタル社会の拡大によりDCの電力需要は年々増加 しています。DCのエネルギーの消費効率向上は可能で すが、電力消費自体をなくすことはできません。

NTTコミュニケーションズが2020年度に東京で開設したDCにおいて、再生可能エネルギーの使用を開始しました。本DCでは、お客さまのご要望に応じてサーバールーム内のラックに給電することも可能で、グリーン電力利用を証明する「グリーン電力証書」もご利用いただけます。

今後は取り組みを拡大し、自社のみならず、お客さま への再生可能エネルギー普及にも貢献していきます。

# 通信ビルにおける 空調電力削減に向けた継続的な取り組み

これまでの空調電力削減に向けた取り組みとして、サーバールームの「温度状況の見える化」により冷やしすぎ箇所を検知し、自動的に「空調制御」を実施する「Smart DASH®」やラック列間の通路を壁や屋根で覆い、IT装置への吸気(低温)と排気(高温)を物理的に分離して効率的な空調環境を実現する「アイルキャッピング」を設置してきました。

さらなる空調電力削減に向けてはICTを活用した温



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

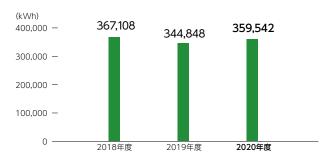
企業情報

度・電力量の見える化から、ルームごとの空調効率 (PUE)を算出し徹底的な気流改善・温度緩和・空調停止により低効率ルームの改善を図る取り組みを継続して実施します。また、ICT装置について旧型装置から高効率型装置へのマイグレーションを伴い、旧型装置をタイムリーに停止することで、ICT消費電力削減およびこれに連動する空調電力削減に取り組んでいきます。

# | 再生可能エネルギーを積極的に導入する | 太陽光発電システムの運用

NTTコミュニケーションズでは、2009年より東京都内の通信ビルやDCビルにおいて太陽光発電システムによる発電に取り組み、現在4基が稼働中です。

#### ◆ データセンターでの太陽光パネルの総発電量



太陽光発電システムに よる2020年度の発電実績

約**36**万kWh

# オフィスにおける取り組み

# 2020年度の実績



CO₂排出量

2020年度目標

1.6 万t-CO2以下



2020年度実績

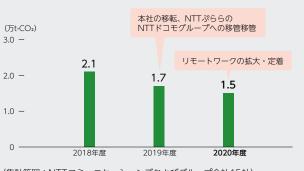
1.5万t-CO<sub>2</sub> 対前年度比 10%減 (2019年度実績: 1.7万t-CO<sub>2</sub>)

2020年度は、従前より全社的な取り組みとして リモートワークの環境整備を図ってきた中、コロナ 禍に伴う社会的要請を受け、リモートワークのス ムーズな拡大・定着に成功しました。その結果、オ フィスでの電力使用が当初の想定を上回る減とな り、CO2排出削減量についても大きく目標を達成 しました。

2021年度は、リモートワークネイティブの取り 組みの一環として、従業員の出社率の上限を30% と想定した上で、首都圏のオフィスにて座席のフ リーアドレス化と拠点の集約を実施します。

また、オフィスにおける使用電力の再生可能エネルギー化に取り組み(大手町プレイスでは全使用電力のゼロエミッション化を2021年9月に達成)、CO2排出量について対2020年度比8%減を目標に設定します。

#### ◆ オフィスでのCO₂排出量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント

社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来

自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 輸送・移動における取り組み

# 2020年度の実績

NTTコミュニケーションズは、請求書や販促ツール・オフィス廃棄物などの輸送量を毎年調査し、自主的な取り組みとして「輸送そのものの削減」「輸送量の削減」「輸送距離の削減」「物流の効率化」を推進しています。

2020年度は、販売ツールやマニュアル類の電子 化とリモート営業の推進、Web申し込みの拡大に より紙量の削減を図り、輸送総量は25.4万トンキ 口でした。2021年度も引き続き、電子化やWeb 申請の拡大を推進し、輸送量削減に努めます。

#### ◆ 改正省エネ法における対象物品輸送量



■ 請求書 ■ 開通案内 ■ 販促ツール

(集計範囲:NTTコミュニケーションズ単体)

# 社用車の燃料使用量の削減

私たちは、公害問題の解決と低炭素社会の実現に貢献するべく、NTTが2018年10月に宣言した「EV100」の下、2030年度の一般車両100% EV化を目指すとともに、営業用車両台数そのものの見直しやエコドライブの浸透にも取り組み、グループ全体で社用車の燃料使用量の削減を図っています。

2020年度は本格的なEV導入に取り組み、31台をEV車両へ置き換えるとともに、リモート営業の拡大を背景に68台を廃車としました。社用車のガソリン使用量は5.0万リットル、軽油使用量は0.7万リットルとなり、総量は対2019年度比で4.4万リットル(43.6%)減少しました。

#### ◆ 社用車の使用燃料量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

「EV100」については、こちらをご覧ください https://japan-clp.jp/climate/reoh

# 電気推進システムを採用した船舶における 使用エネルギー量の削減および 大気汚染防止の取り組み

海底ケーブル敷設船「きずな」および「SUBARU」は電気推進システム\*を採用しています。電気推進システムは海底ケーブルの工事形態や海気象の変化などによる負荷に応じて運転するエンジン台数を最適化するシステムです。エンジンの運転台数を制御することにより、A 重油の使用量を抑制し、CO2(二酸化炭素)、NOx(窒素酸化物)、SOx(硫黄酸化物)などの排出量を削減しています。

運航に際しては、「船舶エネルギー効率マネジメントプラン (SEEMP: Ship Energy Efficiency Management Plan)」にもとづくCO2排出量削減のために最も効率的な運航方法(船速、海流、気象を考慮した最適な航路選定など)によって、燃料消費量の最適化に努めています。

また、船舶用LED照明の導入による省エネ化を進めています。

- ※ 電気推進システム: エンジンにより発電機を回し、得られた電力でモーターを 駆動させ、推進用プロペラとパウスラスターを回す方式の船
- ◆ 海底ケーブル敷設船「きずな」 (総トン数8.598トン)
- ◆ 海底ケーブル敷設船「SUBARU」 (総トン数9,557トン)





2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 製品・サービスを通じた社会の低炭素化

# ┃ ソリューション環境ラベルの付与

NTTグループでは、ICTソリューションサービスの環境負荷低減効果を客観的に評価し、CO2排出量削減15%以上のものを環境にやさしいソリューションとして認定する、自己宣言型の「ソリューション環境ラベル」を付与しています。このような環境負荷低減効果のあるサービスを提供することにより、NTTグループー丸となって社会全体の環境負荷低減を目指します。

この認定制度を利用して、NTTコミュニケーションズ

グループでは、2020年度に新たに「ソリューション環境ラベル」を取得したサービスはありませんが、これまでに累計10件を登録しています。今後もソリューションラベルの認定に取り組んでいきます。



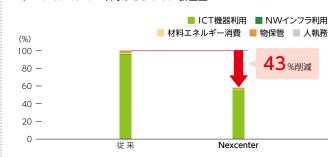
認定ソリューション(抜粋)	CO₂削減効果
Nexcenter	43%
Enterprise Cloud	74%
Arcstar IP Voice	30%
Arcstar Universal One モバイル	24%

「ソリューション環境ラベル制度」の詳細は、こちらをご覧ください https://group.ntt/jp/environment/protect/lowcarbon/label/

# ■ 省エネルギー性能を兼ね備えたデータセンター 「Nexcenter」

NTTコミュニケーションズのデータセンター(DC)サービス「Nexcenter」は、先進の品質を提供します。万全な災害対策で24時間365日無停止で運用できるだけでなく、ロータリーUPS\*\*や水冷式空調・外気冷房の導入によって、DCにおける保守・運用、ICT機器利用に伴うCO2排出量を従来のDCと比較して1年間あたり43%削減できる評価結果を得ました。

- ※ ロータリーUPS:非常用発電機とUPS(無停電電源装置)が一体となっているため、停電などの電源障害発生時にバッテリーを搭載したUPSに切り替え、非常電源稼働までの電力をまかなうことができる
- ◆ Nexcenterの1年間あたりのCO₂排出量



- ※ 社用車および通信ビル (データセンターを含む)、オフィスでの排出
- ※ 集計範囲の変更に伴い、数値を遡及して修正

## エコ ICT マークの取得

私たちは、ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会\*が定める「ICT分野におけるエコロジーガイドライン」に沿ってCO2排出量削減の取り組みを自己評価・申請し、「エコICTマーク」を取得しています。

同協議会は電気通信事業者が省電力の観点から装置 やデータセンターサービスの調達基準を示すことで、 各事業者が適切にCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組むための

ガイドラインを2020年2月(第8.2版)に公表しています(2021年3月に第9版へアップデート)。引き続き、本取り組みへの参画をグループ会社とともに展開していきます。



※ ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会: 2009年6月26日に、一般 社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団 法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人情報通信ネットワー 夕産業協会および特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoTクラウドコンソーシア ムの5団体により発足した協議会



電気通信事業者による「エコICTマーク」の詳細は、 こちらをご覧ください

http://www.tca.or.jp/press\_release/2010/0701\_400.html 自己評価チェックリストの詳細は、こちらをご覧ください https://www.ntt.com/about-us/csr/eco/ecoict.html



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来



環境汚染の防止

人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 重点活動 項目

# 資源が循環している未来

## 私たちのアプローチ

SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」に象徴されるように、循環型社会の徹底・浸透は、人類共通の課題として重みを増し続けています。私たちは、循環型社会の実現に貢献するため、環境負荷の低いビジネスモデルの構築はもちろん、リデュースの推進、リユース・リサイクル率の向上にも日々取り組んでいます。具体的には、撤去通信設備、建設廃棄物、オフィス廃棄物の3つの分類で廃棄物の削減を図るとともに、事業のさまざまな局面でのリデュース・リユース・リサイクルを推進しています。

# 基本的な考え方

循環型社会の実現に貢献するため、「撤去通信設備」「建設廃棄物」「オフィス廃棄物」の3つの分野別にWGを編成し、NTTグループ各社と連携しながら、廃棄物の削減や事業のさまざまな局面で「3R(使用量の削減:リデュース、再使用:リユース、再資源化:リサイクル)」を推進しています。また自社内の取り組みに加え、私たちの知見や技術、ノウハウを活かして循環型社会の実現に貢献します。

# 2020年度の主な成果と今後

2020年度は、撤去通信設備の最終廃棄量が3.1トン、建設廃棄物の最終廃棄量が287.7トン、オフィス廃棄物の最終廃棄量が10.5トンとなりました。全体の最終廃棄量は前年度比3.9トン減少し301.3トン、総排出量は2019年度に続きコンクリート塊を排出する建設工事が増加したため、前年度比4,876.8トン増加し19,455.8トンとなりました。今後も事業活動において、3Rを徹底していきます。

#### ◆ 最終廃棄物量と総排出量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社) ※ 精度向上のため、数値を遡及して修正。

#### ◆ 撤去通信設備の総排出量と最終処分率



(集計範囲: NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社) ※ 精度向上のため、数値を遡及して修正

#### ◆ 撤去光ケーブル再利用量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

#### ◆ 建設廃棄物の発生量と最終処分率



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 環境負荷の低いビジネスモデルの構築

# 水資源の有効活用

水資源は人間を含む生物の生存に不可欠な要素ですが、世界人口の増加や経済発展を背景に水需要のひっ迫や水質汚濁が問題となっています。このような中、私たちはデータセンターにおいて空調冷却水を循環再利用するとともに、主要オフィスビルにおいて節水型トイレを採用するなど、水資源の有効活用に向け取り組んでいます。また、ICTの活用による社会インフラとして、水需要予測などを行うシステムを開発し、水資源にかかる社会的課題の解決にも貢献していきます。

# ▋最終処分率改善に向けた取り組み

リサイクルを徹底したビジネスモデルを構築することは、ICTサービスを提供する企業として重要な責務であると私たちは考えています。この考えに即し、データセンターや通信ビル、オフィスビルでは、リサイクル率を重視した処理業者選定を徹底しています。処理業者選定にあたっては、事前に決めた評価項目での資格審査を実施し、合格した処理業者へ処理を委託することで、適正な処理の実施、リサイクル率の向上に取り組んでいます。この結果、2013年度6.1%であったオフィス廃棄物の最終処分率は、2020年度には1.0%まで改善しました。

#### ◆ オフィス廃棄物の総排出量と最終処分率



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

## 

全社において、固定資産(少額資産・備品を含む)の 効率的な運用とリユース推進の観点から資産を除却する 組織と資産を必要としている組織のマッチングを実施し ています。こうした取り組みもあり、2020年度は124 品の撤去設備や7,897台の装置・パッケージ、1.2km の撤去光ケーブルなどを再利用しました。2021年度も 引き続き、固定資産のリユースを推進し、廃棄物の排出 量削減に努めます。

# オフィスの3Rの徹底

# 業務用紙の使用量の削減

NTTコミュニケーションズでは、事務用紙ならびに

お客さまへの請求書など、業務用のすべての紙使用量の削減に努めています。事務用紙に関しては、2007年度から正社員一人当たりの紙使用量を指標化し、削減に努めています。これまで、ICカード複合機の印刷ログ情報を活用することで、利用枚数の抑制や両面印刷率の向上といった削減努力を推進し、取り組み状況について個人および組織単位で集計の上、毎月全社員へ公開することで意識向上を図ってきました。

2020年度はリモートワークネイティブの取り組みの一環として紙書類の電子化が大きく前進したことで、正社員一人当たりの紙使用量(事務用紙A4換算)は、951枚となり、2019年度(3,585枚)より大幅に減少しました。

#### ◆ 事務用紙の総使用量と正社員一人当たりの事務用紙使用量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびブループ会社15社) ※ 精度向上のため、数値を遡及して修正

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来

自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# プラスチック問題への対応

海洋プラスチックごみによる環境汚染など、世界的に 廃プラスチック問題への関心が高まっています。NTT コミュニケーションズでは「資源が循環している未来」 を重点活動項目の1つとして掲げ、プラスチックの排出 抑制とリサイクルの推進に取り組んでいます。

2020年度はオフィスにおけるプラスチックのリサイ クル率は横ばいとなったものの、排出量はリモートワー クの拡大・定着もあり大きく減少しました。今後も事業 活動を通じてプラスチック問題に取り組んでいきます。

#### ◆ プラスチック排出量とリサイクル率の推移(オフィス)



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来

環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動 項目

# 自然と共生している未来

# 私たちのアプローチ

生物多様性の保全にあたって、設備の構築から 運用、撤去に至る事業活動のすべての局面での配 慮を徹底するとともに、取り組み状況の点検や課 題を抽出、改善を行いながら活動を推進します。 さらに地域保全活動への参画や情報発信といった 環境貢献活動も加え、多面的な取り組みを実施し ていきます。

# 行動指針に即した活動の展開

私たちは「生物多様性の保全に関する行動指針」を制定し、取り組みを積極的に展開してきました。生物多様性の保全には、世界規模で問題意識が高まっています。今後もNTTコミュニケーションズグループ全体で、取り組み状況の点検、課題の抽出、そして改善を推進します。

# 基本的な考え方

SDGsが目標14および15で、海洋および陸上生物の多様性保全を提唱しているように、近年、持続可能な社会実現のための重要な環境問題として、地球温暖化防止とともに、生態系の保全が大きな課題として論じられています。私たちは、「環境宣言」のテーマの1つに「自然と共生している未来」を設定し、環境保護活動を推進するため「生物多様性の保全に関する行動指針」の下、グループ全体で行動指針に即した活動を積極的に展開していきます。

# 生物多様性の保全に関する行動指針

#### 1. 基本方針

- 事業活動を軸とした展開 あらゆる活動が地球上でつながり生物多様性と関わりが深い ことを認識し、事業特性に応じて関係する国内外の活動範囲 とその影響を把握し、保全効果が認められる取り組みを推進 します。
- 社会への貢献を軸とした展開 事業との関連性にとらわれず広く、生物多様性の保全に向け た取り組みをステークホルダーとともに推進し、その成果を 情報公開していきます。

#### 2. 行動方針

- 事業活動における生物多様性保全に配慮した行動を実施
- 事業活動による社会の生物多様性の保全に貢献
- 生物多様性の理解を深め、従業員やその家族、地域とともに 自然保護活動を推進

# 2020年度の主な成果と今後

「生物多様性の保全に関する行動指針」を遵守し、NTTグループで掲げている、環境に配慮した建築物「グリーンビルディング\*」の考えにもとづき、設備の構築・維持・改修を行ったほか、ICT企業ならではの取り組みを継続して進めています。NTTレゾナントでは、ポータルサイト「goo」のトップ画面を変更することで、ユーザーが環境保護団体への寄付に参加できる「緑のgoo」を通じて情報発信や啓発活動を行いました。

2021年度も引き続き、ICT企業ならではの貢献力も活かしながら取り組みを推進していきます。

※ グリーンビルディング:エネルギーや水、空調設備などによって天然資源の使用量や廃棄物が少ない環境配慮型建物



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 生物多様性の評価

生物多様性の保全への基本方針として、NTTコミュ ニケーションズは生物多様性と事業との関わりを把握 し、生態系に与える影響をできるだけ小さくするために 生物多様性に配慮した設備の対応やICTを活用した保全 活動に取り組み、自然と共生している未来の実現を目指 します。また、生物多様性を将来世代に引き継ぐための 取り組みを推進します。

具体的には、ケーブル敷設船における生態系保全活動 やデータセンター・無線中継所の建設・撤去時における 潜在的な環境影響評価の実施など、生態系への配慮を推 進するとともに、ステークホルダーの皆さまと協働した 取り組みにも努めます。

# 建物の設置にあたって

# 生物多様性に配慮したガイドライン

データセンターなどの建物を新たに建設する際には、 NTTグループ「建物グリーン設計ガイドライン」に基 づき、建物の敷地およびその周辺地域の歴史的、社会的、 地理的、生物的な環境特性の把握に努め、必要に応じて 設計に反映しています。

このような環境への配慮と同時に、施工時には低騒 音・低振動、地域美化などに配慮し、運用時には空調屋 外機や非常用発電機に近隣への排熱や騒音の影響を抑制 するための工夫も施しています。



NTTグループ「建物グリーン設計ガイドライン」の詳細は、 こちらをご覧ください https://group.ntt/jp/design/

# ■ 地域の景観・緑化への配慮

地域の緑化に貢献する施設設計も、周辺への生物多様 性配慮として大切であると私たちは考えています。

都内最大規模の東京第6データセンターでは、東京都 公園協会の「都市緑化基金」の助成のもと、地域密着の 緑化活動を推進しています。敷地内の緑地を、春夏ゾー ン、秋冬ゾーンの2つに分けて植栽。来訪者は年間を通 して花を観賞できます。また、風環境シミュレーション を実施し、風の影響を受ける南西角には常緑樹を配する など、周辺環境と調和したデータセンターを目指してい ます。

## ◆ 春夏ゾーン



#### ◆ 秋冬ゾーン



# 海底ケーブル敷設にあたって

NTTコミュニケーションズは、海底通信ケーブル ネットワークのインフラ構築にあたり、「海洋汚染の防 止しを基本方針に掲げ、海洋汚染防止条約をはじめとし た環境関連法令を遵守するとともに、海洋生物や漁業と の共存を重視して取り組んでいます。

海底ケーブルの敷設・埋設工事や保守業務は、グルー プ会社であるNTTワールドエンジニアリングマリンが 担っており、海洋環境保全への高い意識のもとで事業を 展開しています。

# ▲海底ケーブル敷設工事による影響への配慮

海底ケーブルの敷設・埋設工事に際しては、事前に 環境アセスメントを実施し、関係官庁や自治体などと も協力しながら綿密にルートを設計したうえで、工事 計画を立案しています。例えば浅海部ではサンゴなど の生息エリアは基本として除外しますが、除外できな い場合は敷設ルート外へ移植するなど、海洋環境保全 に配慮しています。

また、敷設・埋設工事前には海底面の掃海作業を行う 場合があります。なお、掃海作業で引き揚げた漁網や ロープ、ワイヤーなどの海底ゴミを敷設船上に回収し、 入港後に産業廃棄物として適切に処理しています。



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報







# 【ケーブル敷設船における生態系保全対策

船の安定性を保つためのバラスト水に含まれる海洋生 物は、航海により他海域に排出されることで生態系を破 壊する恐れがあります。バラスト水による生態系の破 壊を防ぐため、海底ケーブル敷設船「きずな」および 「SUBARU」では「バラスト水管理条約\*」にもとづき 国際海事機関 (IMO) が定めたバラスト水処理装置を搭 載して、海洋生物を含まない水を排水するようにしてい ます。

さらに、両敷設船のバラスト水処理装置は化学的殺菌 方式を使用せず、環境負荷が低いとされる紫外線殺菌方 式です。また、船体塗装については、有機スズ化合物を 含む船底防汚塗料の使用を規制するAFS条約(船舶の有 害な防汚方法の規制に関する国際条約) に適合した塗料 を使用しています。

※ バラスト水管理条約:海洋環境へ影響を与える海洋生物の越境移動を防止す るためにIMOにより2004年に採択され、2017年9月8日に発効

# 中継所の建設・撤去にあたって

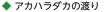
データ通信網を支える無線中継所は、丘陵地や島しょ 部など自然豊かな地域に立地することがしばしばあり、 その運用では生物多様性への配慮を重視しています。

2021年3月31日現在、私たちが所有する無線中継 所42カ所のうち8カ所が国立および国定公園内にあり ます。これらの巡回保守のため道路の敷設が必要な場合 には、徹底した法令の遵守および独自の環境アセスメン ト手法にもとづき建設しています。アセスメントでは建 設プロセスに即し配慮すべき点を具体的に設定し、生態 系への影響の回避・軽減を多面的に心がけています。

一方、撤去工事においても、建設前の状態に戻すこと を基本とし、希少動植物に十分配慮し、地元環境団体・ 住民の方と協議を行い、地元の土を使用するなど原状の 復元に努めています。

また、生物保護の観点から施設を提供する活動も適宜 行っています。例えば2012年9月から、毎年、鹿児島県 奄美市にあるNTTコミュニケーションズの無線中継所内で、 NPO法人「奄美野鳥の会」が、タカの一種「アカハラダカ」

の渡り観察会を実施していま ◆ アカハラダカの渡り す。通常、無線中継所は立 入禁止ですが、生態系の状 況観測に適した立地である との要請を受け、社員立ち 会いのもとで行っています。





# ICTを活用した生物多様性への貢献

# ■製品・サービスを通じた貢献

日本の農山村では、イノシシやシカなど野生動物によ る農林業への被害が深刻化しています。獣害対策の1つ として、わなを設置して野生動物を捕獲する方法が採ら れています。

NTTPCコミュニケーションズは、屋外センサーが発 信するデータを活用する「IoTサービス」の1つとして、 鳥獣わな監視通報装置「みまわり楽太郎」を開発し、獣 害策に貢献しています。この装置は、NTTドコモ社の通 信サービスを利用して、わなが作動すると指定されたア ドレスに通知メールを送信する仕組みとなっているため、 見回り負担の軽減が実現できます。また、カメラ付き タイプでは捕獲状態を画像で送信できることから、誤っ て保護動物が入っても早期に対応できます。同装置は 2011年7月の販売開始以来、全国50以上の自治体で採 用され、里山の生態系保全に貢献しています。導入事例 としては、佐賀 ◆ みまわり楽太郎

市様が総務省の ICT事業への補 助金を活用し、

鳥獣被害対策の 効率化を実現し ています。







2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来

環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 情報発信、啓発活動を通じた貢献

ICT企業ならではの貢献の形として、ネット媒体を通じた情報発信・啓発活動に、社会の期待が高まっています。私たちは、多様なネット媒体を活用した活動を継続し、生物多様性の大切さをお伝えしつつ、幅広い皆さまの行動を促進しています。

# ■緑のgooの活動

「緑のgoo」とは、サイトの利用を通じて得られた 収益の一部を環境・社会保護活動に寄与する団体に寄付する取り組みです。ユーザーは「goo」のトップデザインを「緑のgoo」版に変更することにより、取り組みに参加することができます。また社内で利用推奨していただく「企業パートナー」には、現在、NTTグループをはじめ59社に参加いただいています。2007年8月の開始以来、地球環境保護に取り組むNPOを中心に寄付団体は累計46団体、総額5,879万円を寄付してきました。



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

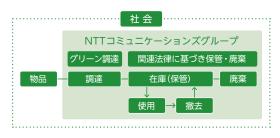
# 環境汚染の防止

# 私たちのアプローチ

私たちは、事業活動に起因する環境汚染や有害物質の漏えいなどさまざまな環境リスクの顕在化を防ぐために、低公害車導入の指針策定や、設備や運用方法の改善、管理体制の整備強化や教育・研修などさまざまな施策を講じています。

社会の関心が高まる化学物質の管理体制については、かねてより廃棄物処理法、PCB特措法、電気事業法などにもとづき、統括責任者など各管理者を設置するなど適正に保守部門で管理を実施しています。保管点検についても定期的に実施する一方で、地震や災害などの有事には社長を筆頭に最高経営層も含めた速やかな情報連携を実施する体制を徹底しています。また、環境法令研修では、環境法令の改正内容などを常に把握、各環境WG内で情報の共有を行い、タイムリーに運用の適正化を図っています。

◆ 事業ステージに即した環境汚染の防止に向けた仕組み



# 基本的な考え方

生産活動や消費活動の結果、さまざまな排出物や廃棄物を生み出しています。その結果自然環境の汚染が進むことが以前から社会課題となっています。

私たちは、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に象徴されるように、事業活動により発生する廃棄物や排出物の削減や、有害物質の適正管理・処理を行い、環境汚染の防止、安心・安全な社会生活の実現を推進していきます。

# 2020年度の主な成果と今後

「2030年度に国内一般車両のEV化率を100%とする」との方針と目標を設定しました。実行面では、営業用車両台数そのものの見直しやエコドライブの浸透にも取り組み、グループ全体で社用車の燃料使用量の削減を図っています。

2020年度は、本格的なEV導入に取り組むとともに、 リモートによる営業活動の拡大を背景に車両台数は対前 年度26%減、CO2排出量は対前年度44%減という成 果が得られました。引き続き、車両台数の見直しやEV 化を進めます。



2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# 環境汚染物質への取り組み

# 環境汚染物質対策

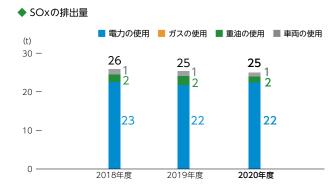
私たちは、事業活動に起因してNOxとSOxの大気汚染物質を排出しています。NOxについては、55%が業務用車両の運行に伴うガソリン・軽油の使用により発生し、残りの45%は、通信ビルなどでの予備電力の使用に伴い発生しています。SOxについては、その大部分(89%)が上記電力の使用に伴い発生しています。

2020年度のNOxおよびSOxの排出量は業務量車両の運行減などにより、それぞれ156トン(2019年度比20%減少)と25トン(2019年度比1%減少)となりました。引き続き、車両台数の見直しやEV化などを進めることで、温暖化対策と併せて大気汚染の防止を推進します。

#### ◆ NOxの排出量



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)



(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

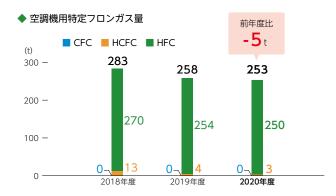
# オゾン層破壊物質対策

私たちは、オゾン層破壊物質の適切な処理に取り組んでいます。2020年度に残存する消火設備用特定ハロンガス量は、前年度と横ばいで143トンでした。

また、2020年度に排出した空調機用特定フロンガス量は、前年度より5トン減の253トンとなりました。

#### ◆ 消火設備用特定ハロンガス量





(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの サステナビリティ



社会への貢献



地球環境への貢献

2020年度の活動実績 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

# アスベスト対策

アスベスト対策では、建物・オフィス関連の取り組みとして、2006年9月に国で定める基準値が見直されたことから、アスベスト吹き付けがなされていた建物を対象にアスベスト浮遊量調査を実施し、基準値以下であることを確認しました。2019年度に、対象4ビルについて、浮遊量調査を再度実施し、すべて基準値以下であることを確認しています。また現在、そのうち1ビルについては、可能な箇所のアスベスト撤去工事に取り組んでいます。今後も引き続き、対象ビルについては、建設業労働災害防止協会や各自治体が発行しているマニュアルに従い、「除去」「封じ込め」「囲い込み(保管)」などの適切な措置を実施していきます。

# PCBの保管・管理

NTTコミュニケーションズでは、電気設備で絶縁材料として使用されていたPCB含有装置の適切な管理を実施しています。PCBの保管に対する方針として、早期の無害化処理およびPCB含有装置継続使用の状況把握・管理方法を定めたガイドラインを制定しています。

2020年度は、PCB含有の恐れのある電気設備について、掘り起こし調査を実施しました。新たに発見されたPCB含有装置について、次年度以降に無害化処理を実施する予定です。

#### ◆ トランスの保管量(単位:個)

		2018年度	2019年度	2020年度
٢	ランスの保管量	0	0	6

(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

#### ◆ コンデンサの保管量(単位:個)

		2018年度	2019年度	2020年度
コンデンサ	高圧コンデンサ	0	0	0
の保管量	低圧コンデンサ	0	0	2

(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

#### ◆ 安定器の保管量(単位:個)

	2018年度	2019年度	2020年度
安定器の保管量	1,488	123	363

(集計範囲:NTTコミュニケーションズおよびグループ会社15社)

# 有事に備えた化学物質管理

近年、自然災害が世界規模で多発していることなどを背景に、有事を想定した環境汚染物質の管理体制について社会の関心が高まっています。私たちは、ITインフラを所有・運用する事業者として、かねてより「万一」を念頭においた保管・管理体制を徹底してきました。汚染物質、特にPCBの管理においては、耐震、防火、水防、避雷、耐浸透、換気、セキュリティなどに留意した管理を実施。定期的な点検を通じ、適正に管理されていることを常日頃より確認しています。さらに、大規模な地震や災害などの有事に対しては、災害発生時の損害の防止

のみならず二次災害の防止の観点も踏まえ、迅速な確認 体制を構築。安心・安全に向けた不断の運用を心がけて います。

#### ◆ PCB保管場所

# 特別の日本主義を取 アロステム 物 伊管福所 日本のいめ立入のを 日本ののの 日本ののの 日本ののの 日本ののの 日本ののでの 日本ののの 日本ののの 日本ののでの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本のの 日本の 日本の

#### ◆ PCB保管状況



# 重大漏出事故

2020年度、NTTコミュニケーションズグループに おいて、重大な漏出事故はありませんでした。

# 有害廃棄物の輸送、輸入、輸出状況

低濃度PCBについては、早期無害化処理を行う方針のもと処理計画を策定し、2014年度に九州・北海道保管分、2016年度に東京保管分、そして、2019年度には、残りの大阪保管分の無害化処理を実施し、保管分の処理が完了しました。

